

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	本人がより良く暮らすため職員チームやホーム全体での検討に因り、利用者個々のケアプラン作成をしています。利用者やスタッフ慣れ過ぎた為か、スタッフ各人が対症療法に陥りがちである。それでも良い場合もあるが、慣れ過ぎによる問題の本質までアプローチ出来ていないケースが出て来ている。新入所者や、BPSDの激しい利用者には、緻密なアセスメントやモニタリングによるアプローチでなければ、実際に介護困難な事例も発生している。	<ol style="list-style-type: none"> 利用者に対しての対応方法に改善の余地が無いか一人ずつ見直す。 特にBPSDの著しい利用者や、介護困難利用者、新入居利用者については、対症療法に片寄らないで、問題の本質を見付ける介護を目指す。 	<ol style="list-style-type: none"> センター方式の勉強会の再実施 ひもときシート活用の勉強会の実施 職員全員で、介護困難者の事例研究実施 担当別に、センター方式、ひもときシートによるケアプランの見直し 御家族様とのカンファレンス実施 新ケアプランに因る、情報の共有 利用者個別に新ケアプランについてのアセスメントの実施 	10ヶ月
2	33	利用者の重度化による、ターミナルケアの実践、看取りの実践も既に開所以来9人にもなっているが、一人一人がターミナルステージに至る場合には、比較的スムーズであるが、ホーム全体が少しずつ重度化する傾向にあり、全体の活動が不活発になって行く事に、とても不安を覚える。	<ol style="list-style-type: none"> ホーム全体の活動性改善計画を作成する。 ホーム全体の活動性を上げる為に、ADLの良い利用者には、1日1回外出をする。 	<ol style="list-style-type: none"> 日中活動の問題点について再検討 利用者ADL別、重度別活動プログラムの作成 新活動プログラム実施に、必要な対策の抽出 人的問題を解決する為にボランティアの募集 重度別活動実施の勉強会、研修会の開催 	10ヶ月
3	4	運営推進会議が、決められた通りに開催できていない。	出来る限り、運営推進会議を規定通り開催する。	前回より、運営推進会議開催日の最後のプログラムに、次回開催日を決める事にした。	2ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。